

答辞

冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じさせる季節になりました。本日は私たちのためにこのような温かい場を設けていただき、ありがとうございます。そして、ご多用の中、ご臨席くださいましたご来賓の皆様、先生方、保護者の皆様に、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

三年前の春、私たちは新しい制服に身を包み、この法政大学中学校に入学しました。コロナ禍で始まった中学校生活。毎日黙食をし、食事中に友達と話すことはできませんでした。陸上競技大会や鈴掛祭も開催するのがやっとの状況で、スキー教室は中止となりました。では、毎日が退屈だったかといえ、そうではありません。最初の鈴掛祭は動画の作成のみでしたが、放課後に残って楽しく撮影や編集をしたことはいい思い出です。私たちはコロナに制限される中でも楽しいことを見つけ出し、学校生活を送ってきました。コロナは私たちから行事を奪うことはできても、楽しさは奪えなかったのです。

そんな楽しい日々を送れたのは、大切な友達がいたからです。冗談を言い合い、たわいもない話で盛りあがったこと。授業中にふざけて一緒に怒られたこと。朝のチャイムと同時に教室へ駆け込んだこと。部活動でお互いを高め合ったこと。数えきれないほどの思い出があります。けんかをして結局は仲直りし、辛いことがあっても支え合う。そんなかけがえのない存在なのです。

そしてそんな毎日を支えてくださったのは保護者の皆様、そして先生方です。保護者の皆様は毎日私たちのために朝早く起き、お弁当を作ってくださいました。おいしいお弁当のおかげで午後も元気に過ごすことができました。本当にありがとうございます。もうしばらくの間お世話になりますが、これからは少しでも親孝行できる人になっていきたいと思えます。

また、先生方は勉強に限らず私たちの間違いを直し、正解へ導いてくださいました。時には近い距離で悩みを聞いてくださったり、話し相手になってくださったりしました。叱られてばかりでしたが、まだまだ未熟な私たちですので、卒業後も変わらぬご指導をお願いします。

私たちはこれから、高校という新たな舞台へ羽ばたいていくこととなります。今後、大きな壁にぶつかることもあるでしょう。ですが、私たちにはこの三年間で得た学びや誇り、思い出、そして助け合える仲間がいます。どんなに大きな壁が現れようと、きっと私たちなら乗り越えられるはずです。この法政大学中学校で学んだことを胸に、自分の未来を力強く切り拓いていきます。

最後になりますが、法政大学中学校のますますのご発展を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

二〇二四年三月十六日

卒業生代表

森 湊人